

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立農産高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、総務部
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務部主任（主幹教諭）、生活指導部主任（主幹教諭）、
進路指導部主任（主幹教諭）、園芸デザイン科主任（主任教諭）、農場部主任（主任教諭）、
研究部主任／食品科主任（主幹教諭）、1学年主任（主任教諭）、2学年主任（主任教諭）、
3学年主任（主任教諭） 計12名
- (4) 協議委員の構成
大学理事長1名、中学校長1名、小学校長1名、公共機関職員3名、保護者代表1名、
地域住民代表1名、保護司1名 計9名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年6月15日（木）内部委員12名、協議委員6名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、
昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明、意見交換
第2回 令和5年11月30日（木）内部委員12名、協議委員6名
学校活動状況の報告について、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
第3回 令和6年2月8日（木）内部委員12名、協議委員4名
学校評価の報告及び学校運営に関する報告、協議委員へのアンケートの実施報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和5年11月30日（木）
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、
今年度の学校評価の実施に向けた検討、質問項目の一部変更
第2回 令和6年2月8日（木）
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象：374人	回収：344人	回収率：92%（昨年度78%）
・12月 保護者全員	対象：374人	回収：207人	回収率：55%（昨年度55%）
・12月 教職員	対象：52人	回収：41人	回収率：79%（昨年度67%）
・11月 協議委員	対象：9人	回収：7人	回収率：78%（昨年度70%）
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、学科の在り方、特別活動・部活動、施設・設備、経営企画室の対応など
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
・生徒対象のアンケートでは、21項目中9項目で肯定的評価が80%を超えており、授業や学校生活にはそれなりの満足度があると考えられる。一方で、トイレをはじめ施設面への肯定的評価が低いのと、授業以外（生徒会活動、農業クラブ活動、部活動、地域貢献等）に参加している生徒がかぎられていることがわかった。
・本校に入学させて良かったと考えてくれている保護者や、家庭で学校のことを話している生徒が多いことが特徴的。インターンシップなどへの興味関心も高い。一方でアグリマイスター制度への理解が進んでいないので丁寧に説明する必要がある。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
・教科担当者が生徒理解を深め、主体的、対話的で深い学びの授業法を実践するとともに指導計画、評価等についてさらに説明を行い、理解を得ることが大切である。
・校内の情報共有や意思疎通についても、校内で縦割りにならず、チーム学校で組織的に課題対応できる、風通しの良い組織をつくっていけるよう改善していきたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業や学校生活へのアンケート結果はほとんどが肯定的評価 80%を超えており、生徒の満足度は一定水準以上であると言える。
- ・X（旧 Twitter）による学校からの情報発信が好評である。今後も恒常的に推進していく。
- ・地域貢献や地域連携への評価が高い。家庭や地域との連携が重要であることが認識できた。
- ・地域防災について、地域の中で高校生に期待する部分が大きく今後も連携等を進めて欲しいとの要望を受けた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・授業以外（部活動・生徒会活動・農業クラブ活動・地域貢献等）に参加している生徒が限定的である。
- ・トイレをはじめ施設面への老朽化や環境美化への満足度が低く、学校魅力化の足かせになっている。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・部分最適よりも全体最適を優先し、全ての教育活動を通じて、生徒の期待に応える教育の充実に努めること。
- ・見える化を通して情報の風を学校全体で共有することに加え、学校ホームページやX（旧 Twitter）などの充実により情報発信を活性化し、地域・保護者とより一層連携を深め、共に生徒を育てること。

（2）学習指導

- ・朝学習の活用を組織的に実践し、生徒の基盤学力を確実に身に付けさせる。
- ・専門高校としての特性を生かし、自己実現を図るためのキャリア教育を充実させる。
- ・大学、民間を含めた地域社会との連携により、学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」を先駆けて実践する。
- ・授業研究を実践し「力をつける授業」を展開する。

（3）特別活動

- ・今年度「農産祭」、「体育祭」の2大行事はほぼコロナ禍前の規模で実施する事ができた。今後も継続的に活性化させる。
- ・各種プロジェクトを支援して、地域・社会に貢献するとともに、生徒の道德心を醸成する。

（4）生活指導

- ・生活目標を認識させ、スクールアイデンティティを確立する。
- ・個別面談で生徒理解を深め、保護者との連絡を密にとると共に、問題行動を未然に防ぐ視点に立った生活指導をすることで退学生徒を減らす。
- ・いじめ防止の生徒指導の実践。講演会、ふれあい月間、いじめ防止アンケートを継続的に実施することで予防を徹底する。生徒・保護者に寄り添った対応を行う。

（5）進路指導

- ・学校組織として系統的な指導を引き続き行い、生徒・保護者が安心できる指導体制を構築する。
- ・キャリア教育の全体計画に基づき、早い段階から計画的な進路指導を行い、就職・進学ともに実績の向上を目指す。
- ・キャリア教育の見える化を図る。

（6）健康・安全

- ・生徒の課題の早期発見とその解決・改善のため、校内研修等により、教育相談機能を充実させる。

6 「良い学校だと思う」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 9人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数 7人

たいへん そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	わからない
4人	2人	0	0	1人

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・両会議とも、協議委員の参加実績はなかった。

8 その他

- ・アンケート分析のため、生徒、保護者、教員の質問項目の検討が今後も必要である。